



JSPSボン研究連絡センター 2011年度第4四半期活動報告 (2012年1月～3月)

< 目次 >

| | |
|--------------------|------|
| 1 2012年1月～3月の主な活動 | …p 1 |
| 2 2012年4月以降の主な行事予定 | …p 3 |
| 3 関係機関について | …p 3 |
| 4 当センターからのお知らせ | …p 3 |
| 5 センター長雑感 | …p 4 |

1 2012年1月～3月の主な活動

第1回 ETH-Japan 教育・研究交流促進シンポジウムに出席

日時: 3月7日～3月8日

場所: チューリッヒ工科大学(ETH) (スイス チューリッヒ市)

チューリッヒ工科大学(ETH)で開催された、「第1回 ETH-Japan 教育・研究交流促進シンポジウム」(“The First ETH-Japan Symposium for the Promotion of Academic Exchanges”)に小平センター長と中川副センター長が出席した。これは、「チューリッヒ工科大学(ETH)と日本の大学との学術的な協力を促進しようとする」ために、「両国の高等教育の最前線に立つ研究者を招き、若い大学生にも理解できるように最新の研究成果と研究環境について紹介してもらい、交換留学制度や単位互換制度を活用するための情報交換の場(インフォメーションブース)を設けて、今後の日瑞学術交流の促進に役立てようとする」(2011年11月1日「ETH-Japan シンポジウムの趣旨とスポンサー募集について」より)ことを目的として、ETHの福田公明教授が中心となり開催されたものである。福田教授よりJSPS本部に参加要請があり、当センターが参加した。

本シンポジウムでは参加希望者に事前のオンライン登録を呼びかけていたが、主催者側担当者によると、参加登録者は180名程度(3日間の内の一部の参加を含む)、内40名程度が日本人ということであった。当センターにてJSPSインフォメーションブースを設置し、小平センター長がJSPS事業説明講演を行った3月7日には、100名程度の参加者があった。

主催者側担当者によると、今回のシンポジウムの反響は非常に大きく、潜在的な日本への関心が非常に高いことがうかがえたという。コーヒープレイク中や当センターの情報ブースには、ETHの大学院生を中心とした参加者が多く質問に訪れ、日本での研究滞在のためにJSPSのフェロシップへの申請を具体的かつ真剣に考えている者も数名いた。



ETH 福田公明教授による開会挨拶



小平センター長による JSPS 事業説明



↑ 3月7日講演終了後に用意された Taeko Szedlak-Oshima 氏によるピアノ演奏

←会場(ETH Aula)の様子



JSPS インフォメーションブースの様子

< 関連 URL >

The First ETH-Japan Symposium for the Promotion of Academic Exchanges ホームページ

<http://www.ifor.math.ethz.ch/~fukuda/conf/ethjapan/EJ1/e0.html>

2 2012年4月以降の主な行事予定

- 05月11日(金) 第17回日独学術シンポジウム(於ミュンスター、～12日)
- 05月16日(水) JSPS サマープログラムプレオリテーション(於ボン)
- 05月24日(木) JSPS ボン研究連絡センター設立20周年記念昼食会(於ボン)
- 09月25日(火) JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会“JSPS Abend“ (於ボン)

3 関係機関について

(1) ドイツ研究振興協会(DFG)

マティアス・クライナー会長(Prof. Dr. Matthias Kleiner)の任期が2012年12月31日で満了しますが、後任会長は2012年7月4日の年次総会にて選出されます。(“duz MAGAZIN“ (ドイツ大学新聞)2012年4月号より。)

(2) ドイツ大学長会議(HRK)

2012年1月にドイツ学術交流会(DAAD)会長に就任したマルグレート・ヴィンターマンテル会長(Prof. Dr. Margret Wintermantel 2012年4月30日まではDAADとHRKの会長を兼任)の後任を選出する選挙が2012年4月24日のHRK会員総会で行われます。(HRK ホームページ http://www.hrk.de/de/presse/95_6807.php より。)

4 当センターからのお知らせ

2011年4月1日より当センターでJSPS国際協力員として勤務した坂本真梨子さん(東京農工大学職員)が2012年3月末に帰国しました。2012年4月からは所属元の東京農工大学の戦略企画課人材企画係にて勤務しています。JSPSでの経験を生かして今後も活躍されることを期待しています。

また、2012年4月1日からは、JSPS国際協力員として新たに吉永幸恵さん(広島大学職員)が当センターでの勤務を開始しました。



5 センター長雑感

東日本大震災とそれに続く原発事故から1年経って、日本では長期的な課題に取り組み始め、ドイツでも事実認識の深まりと共に、様々な慰霊行事やワークショップ、シンポジウムが開催された。WPK (学術プレス会議)主催の原発事故1年回顧会議に出席して、ドイツ当局の原子炉・放射線管理の専門家達(危機管理、原子炉工学、放射線医学、報道主幹)は、日本の置かれた事態について、かなり早い時間帯から十分に客観的で正しい認識を持っていたことを知った。ドイツ市民一般の間では日本という遠い友好国への無知から依然不安がる向きもあるが、JSPS 事業への応募状況や反応を見る限り、2011年の影響は「新たな日本発見」として良い効果を生んでいるように思える。いくつかのドイツ語圏若手研究者向け事業に対して一昨年以上の応募があり、また応募者の質も高いように見受けられる。これが一過性に終わらない事を祈る一方、日本の若い研究者達も勇気を持って「新しい日本の創造」へと羽ばたいて欲しいと願っている。24年度に橋渡しする中川副センター長、帰国する坂本国際協力員、そして現地職員の皆さん、この大変な1年間、ご苦労様でした。

小平桂一 2012.3.26

ぼんぼん時計第35号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777
www. jsp-s-bonn. de